



いばら 公共交通

2011.8
創刊号

かわら 版

みんなで守り、育て、未来に残そう 地域を支える生活交通

「公共交通かわら版」の 発行について

公共交通に関する様々な取り組みや
イベント情報をお届けします

本市の公共交通をとりまく環境は、少子高齢
化の進展やマイカーの普及などにより、厳しさ
が増してきており、将来的な維持継続に向けた
取り組みが必要となっています。そこで、地域
と協働して公共交通を維持していくため、井原
市公共交通会議において、今後5年間で市内の
公共交通のあり方について見直すこととし、そ
の情報発信として「公共交通かわら版」を発行
することといたしました。

この「公共交通かわら版」を通じて、よりよ
い公共交通のあり方について、市民の皆様と
もに考えていきたいと思えます。

今号では、創刊号として、本年3月に策定し
た「井原市地域公共交通総合連携計画」と、本
年度から3年間にわたり実施する「岡山大学と
の交通まちづくり共同研究事業」の概要につい
てお知らせします。

みんなで守ろう
公共交通！



「井原市地域公共交通 総合連携計画」を策定 しました

井原市公共交通会議では、公
共交通の方向性や今後取り組む
べき施策などを盛り込んだ、「井
原市地域公共交通総合連携計画」
を策定しました。

計画では、路線バス、市内循
環バス及び予約型乗合タクシー
などの公共交通を「生活交通」
として位置づけ、今後取り組む
べき事業やその実施主体、スケ
ジュールなどを記載しています。
計画書は企画課の窓口で閲覧
できるほか、市のホームページ
で公開しています。

計画の概要については
裏面をご覧ください。



岡山大学との「交通ま ちづくり共同研究事業」 を実施します

井原市公共交通会議では、平
成25年度までの3年間の期間と
して、岡山大学大学院環境学研
究科(橋本成仁・同研究科准教
授)と連携し、公共交通が地域
の生活に及ぼす効果の調査・研
究と、施策の評価指標の作成や
住民満足度の評価・分析を行う
共同事業に取り組みます。

具体的には、利用者の増減だ
けでなく、路線は赤字でも地域
が活性化した、あるいは、高齢
者の外出機会が増え福祉の増進
につながったなど、公共交通が
果たす生活全般への影響度など
について研究していきます。



暮らしに身近な公共交通を維持するために 井原市地域公共交通 総合連携計画

公共交通を取り巻く環境は厳しさを増している

井原市では、民間3社による路線バスをはじめ、市内循環バス（井原あいあいバス）や予約型乗合タクシーが運行されています。しかしながら、少子高齢化の進展や自家用車の普及などにより、公共交通をとりまく現状は厳しさを増し、市の財政負担の拡大等が危惧される状況にあります。

一方で、市内には、中山間地を中心に公共交通空白地が点在し、過疎・高齢化が進む中で自家用車の利用が困難な方が増えつつあるなど、市民の皆様が平等にかつ容易に移動できる公共交通体系の構築は市政にとって重要課題となっています。

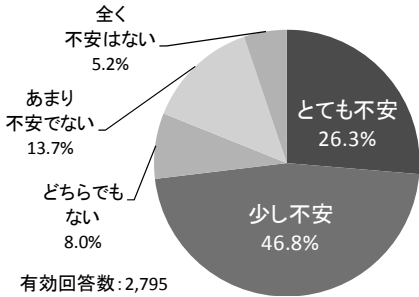
こうしたなか、地域の「生活交通」である公共交通を維持していくためには、市民、事業者、行政が一体となって、地域全体で連携して取り組むことが求められています。

多くの市民の方が将来の移動に不安を感じ、公共交通の存続を望まれています

計画の策定にあたり、市民の皆様を対象に実施したアンケート調査によると、回答者の7割強が将来の日常交通に不安を感じており、多くの市民の方が、将来の移動手段に対して不安を抱えている状況が浮き彫りとなっています。

また、約8割が、「公共交通の存続のために、市の補助額を維持あるいは増額すべき」と回答されています。

【将来の日常交通に対する不安】
※アンケート調査結果より

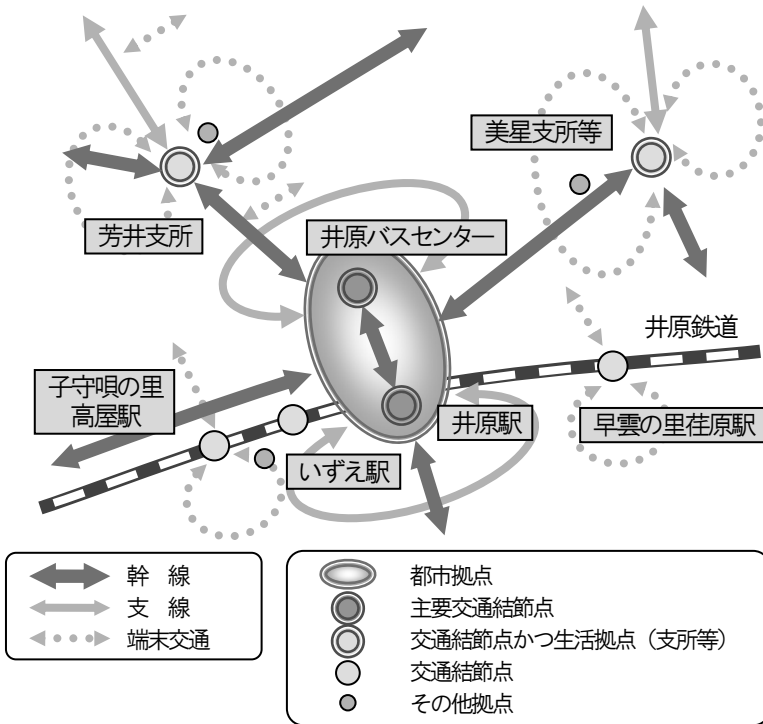


公共交通を地域全体で守り、育て、未来に残していきたいと思います

こうした状況を踏まえ、地区住民代表や交通事業者、国・県・市、学識経験者などにより構成される「井原市公共交通会議」において、公共交通の方向性や今後取り組むべき施策などについて審議し、「井原市地域公共交通総合連携計画」として、とりまとめました。

計画の概要は次のとおりです。

【公共交通体系の将来イメージ】



計画の基本方針

本市の公共交通を、誰もが自立した生活を送ることができるよう「生活交通」として位置づけ、暮らしに身近で、わかりやすく利用しやすい公共交通をみんなが守り、育て、未来に残すことを基本方針としています。

計画の期間

平成23年度から平成27年度までの5年間としています。

計画の目標

地域や公共交通の現状などを踏まえ、次の4つの目標を設定しています。

- ①公共交通を使って、週に2回は自分で買い物や病院に行ける
- ②毎日、公共交通を使って、通学できる
- ③車が運転できない人も、どこに住んでいても、市の中心に行ける
- ④いつまでも私たちのまちに、公共交通が走っている



本計画に基づき、路線・ダイヤの見直しや利用意識の向上などの様々な事業に取り組んでまいります。